（大正九年七月十一日第三種郵便物認可）　大正九年十月五日　京城日日新聞　火曜日　第九十二號　（一）

京城日日新聞

殖民地概説（六〇）拓殖局編

第六章 殖民地の産業

第五節 商業貿易

第一 朝鮮

貿易

一 總說

朝鮮に於ける貿易は經濟の發達に伴ひ歳々增進の趨勢を示し殊に輓近異數の發展を告げ大正七年に於ては輸移出入總額三億二千七百七十二萬一千圓餘に上り內輸移出超過額百十三萬一千圓なり、而して輸移出貿易の八割九分、輸移入貿易の七割四分は內鮮間の貿易にして其の他は外國貿易なり、現今朝鮮に於ける開港は仁川、釜山、元山、鎭南浦、群山、木浦、淸津、城津、新義州、龍巖浦の十港なるも馬山及鎭海は內鮮間貿易船のみの出入を許し、又京城、大邱、平壤に稅關出張所を置き開港より保稅運送に依る貨物の輸移出入を取扱ふ、而して釜山港は貿易額第一位を占め仁川港之に亞ぐ、此の兩港は實に朝鮮の二大關門にして釜山は內鮮間貿易を以て顯れ仁川は支那及歐米諸外國貿易を以て聞ゆ大正七年に於ける貿易額は釜山一億一千百二萬八千圓餘、仁川四千四百七十三萬圓餘なり

二 輸移出重要品

朝鮮の輸移出品は農產物及鑛產物を主とし就中米、金及大豆は實に三大貿易品たり、其他含金銀粗鑛、銅塊、牛皮、棉花、魚類、紅蔘、金鑛、鐵鑛、石炭、生牛、肥料、海藻、鯨肉等は何れも重要なる輸移出品なりとす、而して大正七年に於ける輸移出額、米は六千百五十四萬一千圓、金は六百二萬圓、大豆は九百五十萬圓餘なり

三 輸移入重要品

朝鮮の產業は農業を主とし工業は甚だ幼稚なるを以て輸移入品は工業製造品多く就中綿織物は其の大宗たり、其の他小麥粉、砂糖、酒、石油、藥材、絹絲、麻織物、絹織物、紙、鐵、鐵道材料、機械、石炭、木材及板等は何れも重要なるものにして近時企業の勃興に伴ひ各種原料品の輸移入も亦增進の趨勢あり、而して大正七年に於ける輸移入額綿織物は三千百十七萬圓餘、綿絲三百十四萬圓餘なり

四 陸接國境貿易

朝鮮の貿易は叙上の開港に依るもの〻外鴨綠江及豆滿江陸接國境に於て滿洲及露領との間に行はる〻ものあり、大正七年に於ける貿易額は輸出百七十一萬餘圓、輸入二百十一萬圓なり、輸出品の主なるものは生牛を第一とし石油、大豆、米、魚類、紙卷煙草等にして輸入品は粟其他の穀物、木材、人蔘、牛等なり

西伯利の瞥見（三）

食物

中等生活を營む家庭の平日に於ける食事は革命前と大差なく之を紹介すれば左の如し

▲朝食、紅茶、食パン▲正午晝食、スープ他肉類料理一品食パン▲午後三時、紅茶▲午後八時前後、夕食、肉類料理一品食パン、▲午後九時紅茶

來客ありたる場合は果實及職人の製造せし菓子を供し酒を肴として更に、一、二、品を增加し特別の場合には數種の副食物を調理し食卓を賑すことあり、紅茶には砂糖、イチゴ類のジヤム手製のパン菓子等附屬し、牛乳を混ずるもの〻なり紅茶は一人一回に一升位を飲み自己の鼓腹を指し曰く、斯く肥滿せしは多量に紅茶を飲用せし賜なりと獨身者等は飲食店にて飲し朝夕は紅茶を飲用するに過ぎざるものとす

（四）家屋

露國に於ける家屋は煉瓦造、石造り木製造り等ありて內地に於ける西洋家屋と內部の耐寒上の設備に於て差異ありと雖も外見何等異る處なきも木造家屋のみは之を內地に於て見る能はざるものにして其構造は丸太の横に適宜重ね其上に粘土を塗り之を壁の代りとして建築したるものなり而して丸太の重量との比較上大なる家屋の建築は不可能なり此家屋の內部に於ける構造或は裝飾等は他の家屋と差異あるにあらざれ共外部に於ては之に裝飾を加へざるを以て外觀體裁の惡き事甚だし元來此木製家屋は經濟の少きな本旨としたる家屋なれば從つて此種の家屋は都市に於ては稀にして山間僻地の特有物なり との關係上以上述べたる種類の外其職業を見ず漸く日本家屋に類似する家屋或は壁の薄き一時的家屋は到底寒きに耐えざればなり

然らば內部の耐寒上の設備に付て如何なる差異あるやと云ふに顯著なるものを示せば（一）ペーチカの存在すること（二）二重窓の設置あること（三）壁著しく厚き事等とす

（イ）、ペーチカ

ペーチカとは露國特有の暖爐の意なり而して之を室內の一隅に設置するを常とす、時として兩個の部屋の中間壁を穿ちて一個のペーチカを設置したるものなきにあらず、ペーチカの形狀は圓筒形をなし外部は薄き鐵板を以て掩はし下部に火焚口及灰取口等を有す內部は總て煉瓦を以て之を築く式に依り横道屈曲或は縱道屈曲ありて煙道を異にすと雖も總て同一ペーチカ內を種々の屈曲を爲して遂に煙突に至るは皆同じ蓋し直接燃焼煙突に至れば熱するに速ならず又保熱の作用も熱あらざればなり而して室內の大小に依りて「ペーチカ」の大小ありと雖も圓の徑數尺に圓筒の高さ一丈より低きは稀とす普通「ペーチカ」は圓筒形なれ共然らざるものなきにあらず既に述べたるが如く「ペーチカ」內に於ける煙道は屈曲を有するものなれば一度之を焚かんか如何なる嚴寒日と雖も室內は攝氏十四五度に昇り殆と初夏に近き溫度を保つされば露人は冬期もシヤツずぶん下は夏季と差なく其室內に於ては夏服に同じく胸等を透視し得る薄き衣服を用ふ

都會に於ては「ペーチカ」以外にスチームに依り採暖するものあり

（ロ）、二重窓

露國に於ては一重の窓にて其寒風を防ぐべくもあらず如何なる家屋たるとを問はず二重窓の設置を有し窓織の間隙は硝子破用にて或は張紙を以て之を防ぐ猶冬期空氣中の水蒸氣が硝子に結氷溶解せし水滴を吸收せしむる爲め內外窓の中間下部に鋸屑又は綿を置くを通常とす

（ハ）、壁

壁の厚さ二尺又は夫れ以上のものあり之防寒上の設備より來る當然の現象とす

以上の如く露國家屋は防寒上の設備に於てのみ差異を有すれ共間取の具合室內裝飾品等に於ては他國の西洋家屋內に於ける裝飾と異ることなし

家屋に於て特記すべき事は便所の設備不完全なることあり露國に於ては餘程の富者にあらざれば同一屋內に便所の設備を見ず普通共同便所にして一個の建物に數戶の家族生活する關係上普通共同して使用すされば其不潔言語に絕し難く殊に清潔を好む日本人に在りては殊の外不快を感ず都市に於ては建物が大なるに依り一棟內に數戶居住するを常とす露國に於ける部屋借は內地に於ける部屋借の如く敢て貧者のみ住むものにあらざるべし

米は第二の獨逸　其横暴を見よ

大戰の目的とせし所は明かに獨逸の横暴專恣を懲膺するにあり。其科學と軍隊の實力を頼み獨逸が到る所に領土の擴張に、商權の確立に其手段を擇ばざりしは實に大戰の原因を爲せり、今や獨逸並びに中歐に軍國主義の熄るゝや世界に於ける

米國の努力の擴大したるは何人も爭ふ可からず、之れ主として大戰中數百億の利益を得之によりて英佛の債權者となり、講和會議に於ては西歐に軍を送りて聯合國最後の勝利に貢獻する所ありし爲に外ならず、之によりて講和會議の巴里に開かるゝやウヰルソン大統領は自國の實力を背景として講和會議の

專制君主の如く振舞ひたりしことも世界の等しく認むる所たり。然るに爾來米人の氣漸く傲り專恣横暴到る所に行はれ、自國民の勢力發展と利權の獲得の爲めには世界的に優越せる自國の國力を頼み口に正義人道を唱へ其手段方法を擇ばざるの有様にあり、近く其實例を擧ぐるに、米國の唯一の學者たる可き英國の戰後恢復に際して愛蘭獨立問題の紛糾するや、陰に其魔手を伸ばして之が激成を爲し、或は印度の反亂に埃及問題に

其魔手を染めつゝあるは吾人の窃かに憤慨する所なるが、更に東洋に於ける競爭者なる日本に對しては其手段の奸惡殆と史上に比を見ざる所のものありて支那及鮮人を教唆操縱して排日の氣勢を高め以て此間に自家の勢力を扶殖せんとし東洋の安寧秩序を害し居るのみならず、我國を目して軍國主義の惡名を强ひて宣傳し、遂に加州の排日に於て其本旨を顯はさんとしつゝあり世界に

其專恣横暴全く昔年の獨逸に異ならず、米人動もすれば獨逸の大踏襲を目して軍國主義と罵れるに拘はらず自ら世界第一の海軍擴張を策する如き全く獨逸の二の舞を爲しつゝあるに外ならず、日本國民としては先づ我正義人道を根據として米國が第二の獨逸たるの大々的宣傳を爲すを要す之れ世界平和の爲め米人を反省せしむるの道たればなり。

創作　熱光の下を（二四）　曉谷

その事以來、二三日寺岡が尋ねて來なかつた。私たちも忘れてゐたし、彼も冗談ぢやない位で濟ましてゐる事と思つてゐた。

或日ひよつこりやつて來た。

「誰の悪戯か知らないが、變なのが舞ひ込んで來てね。何だか金太と僕とが關係でもあるやうに思はれて迷惑をしてゐるよ。」

「ええ。あれで……。」

「これなんだよ。」彼は原稿紙の中から一葉のハガキを引き拔いて私達に示した。

「濟まなかつた。實は僕なんだ」

私は非常に氣の毒な思ひがした。と言つて謝まらねばならなかつた。お前も一緒に口を添えた。

「まあ。濟みませんでしたのね。御免なさいよ、妾が止めるのも聽かないであんな惡戯をなさるから……

……御迷惑だつたでせうね」お前も氣の毒さうに言つた。兎に角こんな風で寺岡の此頃は落ち着かないものだつた。

或時は五十錢許りの金を借りて來て、[illegible]もなくて困つてゐるからと言つたことさへあつた。お前が買物に出てゐた時で、斯う言ふことが二三度もあつた。

終ひには纏まつた金を貸して呉れないかと言つて來たので、お前も今迄のことを知つたが、困る時は誰も一緒だから用立てゝやれと、私が言ふと、差當り自分が困つてゐながら財布の底をはたいて出しやつた。

二三度も斯う云ふことがあつてから、お前は可成り後悔してゐた。

「妾が一生懸命になつて稼いでも駄目だワ。人に惡むのは矢張り自分に餘裕がなければ駄目ね」

「後悔するんぢやないよ。後でいろ／＼悔むやうだつたら、何故最初から惡むんだい。愛とか同情とか云ふものはもつと根強く確實に有つてゐなければ駄目だよ。」

要するに、普通の女の慈善とか慈とか云ふものはこれ位のものにすぎないのだと思つた。情に脆い丈け、情に根底が出來てゐない。照り翳りの激しい秋の陽の如だ。

然し寺岡が嬉しい／＼と言ひ乍らマントの裏地が破れてゐるのを氣にしてゐると、お氣の毒ですワねえと言つた。

寺岡はよくやつて來た。そして新聞記者の生活が如何に賑やかでのんきであるかをお前に話した。松村等も時々やつて來ては晩餐を共にしたものだつた。斯うした連中と始終會つてゐると。私の心には又以前の記者が戀しくなつて來た。妙なもので、一度新聞記者をしたら、慈者が二度も三度も出るのと同樣に滅多に足拔きは出來ない。蓮は泥あるが爲に畑に咲く。新聞記者も泥が死へないから罷められない。

寺岡に新聞社へ紹介して與れと言つたのは可成り前のことで、寺岡も乾度近い內に纏めてやらうと受け合つてゐたが容易に手取早く纏まりさうにもなかつた。

私が記者生活をしたいと云ふ事には、親父も餘り喜ばない風であつたが、母はそれも好いだらうと半分は危つかしい返事をしてゐた唯、お前だけと友達だけは熱心な賛成者であつた。兎に角私はさうと決心してゐた。

或日の晝下りだつた。

「今ね。大熊の人に逢ひましたのよ。藤本さんつて云ふお醫者さんなの。向ふでも驚いた風で、何處にゐるかと訊くから、實結婚してすぐそこの家にゐますから是非お寄んなさいと云ふんだけど、寄らないんですの。」

八百屋に買物に行つて歸つた時お前はさう云つて眼を輝かした。

「それは珍らしい。何故寄つて貰はないんだ」

私は氣持ちよく言つた。眞實に同じ人間を選び迎へると云ふのと、嫉妬してゐるのぢやないと云ふ氣を見せたいのとがその時の心持ちを作つてゐた。

「だつて、何うしても寄つて呉れないんですもの。そしてね、貴郎は何をしてゐるかと聞くから畫家だと言つたら、僕の叔父も畫家だと仰有つたワ。貴郎そんな人を知つてゐません？」

内外電報

獨賠償除外と佛國

[illegible]

極東統一著く進捗

[illegible]（西伯利來電）

マ氏日本激賞す

英國自由黨領袖マツケンチキング氏は當地に立寄りて曰く「後日予が内閣を組織する日あらば移民問題に對した大に日本の利益の爲盡力すべし」と語り日本人の勇敢を賞讃し日英同盟に忠實なりとて好感の意を表したり（晩香坡來電）

日米問題暗流依然

同化運動再燃し 同情者聲を潜む

日米問題彼我交渉は既に正式交渉開始と共に具體的協議に入り居れるが其形勢は左の如く觀ぜらる即ち日本は更に今後の移民を禁して其聲明をなすべく土地所有禁止を加州にて通過するは動かすべからざることにて通過後は直ちに有効となすべし其際日本は抗議を提出するは勿論又其の解決案として米國憲法及び條約違反として高等法院に提出すべく其際米國政府は日本側より訴訟を提起せしめんとし日本は米國より是れをなすことを希望し居るが如し結局法律は日本移民の所得權を認むるが如きことは萬々なかるべし市民權問題は目下最も微妙なる關係に逢着し居るが如し然れど今日迄の米國の態度にては幾分樂觀し得べしと信ぜらる加州移民の選擧傳はりしも是れ目下兩國交渉中に含まれ居らざるが如きも今後日本人同化運動と共に再燃するやも知れず今日は同化の實行方法として日米政府共同にて加州に各種の設備をなすべしとの説最も有効なり國務省にては交渉は圓滿に進行し居れりと聲明し居るも未だ一も解決點に達したるものなきは事實なるが如し日米兩國當局共其解決は可なりの準備を要すべしと聲明せり而して最近に加州を觀察して歸れる下院移民委員の一行は最初は比較的日本移民に同情の傾向ありしも次第に其聲を潜め來れるは注目に値すべく次期議會に排日案を提出すべき形勢なり（紐育來電）

紳士協約愈々廢止

米國國務省は紳士協約を廢止し日米新協約を締結せむとす（華盛頓來電）

更に新局面開展乎

加州問題に關する日米兩國の交渉は既に原則に於て略一致點を發見されたるも細則に於て意見の相違あり約一週間交渉を中止し居たるが日本政府より訓電あり幣原大使は三十日國務省を訪問交渉を再開せり然れば交渉は今後新局面に入らむとするものと云ふべし（紐育來電）

鮮人惡化過激派以上

米國議員團と共に歸來せし太平洋同盟會幹事フォード氏は太平洋同盟運動の成功せし報告演説をなし且朝鮮に於ける爆彈陰謀の例を引き鮮人の革命は過激派以上に惡化せりと語れり又近時沿岸の新聞が人心を攪亂せるを非難して罷業の大害を力説せり（ホノルヽ來電）

新借款團意見一致

新借款團組織に關する支那政府への通告に就ては既報の如く英米日佛四國公使間に數回協議を重ねたる結果愈九月二十八日四國公使の意見一致し近く明日の上北京政府に送附すべく該文書は秘密に附せられ居れるも困難なるものなるが巴里會議以來の交渉顛末を撒載し居れりと云ふ該文書の前文に於て滿蒙除外に關する日米間の交渉經過をも記入せん意向なりしが其形式に就て亞米利加側と日本側との記入方に關する字句上の合致點を認むるの必要を感したる趣なるも除外通告文に明白にすべきを以て日米兩國公使間に此の字句を記入せざることに決し英佛兩國公使も之に同意を與ふるに至りしものなりと（東京來電）

巴里に於ける石井大使

石井大使は三十日巴里に來着し再び佛國に來りしを欣悦とする旨を陳述して曰く余は佛蘭西の土を踏むに方り所懷を披瀝せんと欲す余は初めて佛國に來りしものに非ず余は以前巴里に於て日本を代表するの光榮を有したるを以て既に佛國を熟悉し居れり余は一千九百十四年七月來の慘事を目撃し佛國々民の平和的感情と佛國政府が戰爭を阻止せんとする努力を見ることを得たり[illegible]日佛兩國の關係は戰前に於ても[illegible]戰後に於て兩國の關係は愈親密の度を加へたり日佛は今や聯盟國となり余は總ての努力を兩國民の結合を[illegible]すべしと（巴里來電）

露使日本抗議期待

哈爾賓にては支那政府の露國領事公使の待遇停止を不滿とし駐支佛國公使に對し抗議提起を求め一千九百五年の日露協約に依り北滿の現狀維持の利害に關係深き日本よりの抗議をも期待し居れり（奉天來電）

陸軍現役行賞發表

來る十一月一日附を以て發表せらるべき陸軍現役行賞は西伯利派遣軍に關して出征し現に凱旋したる第三第七第十二各師團及び是れに關係せる各師團一部隊を第一次とし過般凱旋せる第五師團及び近く撤退歸還すべき第十四師團出征中の第十三師團及び駐滿第十六師團一部其の他は第二次第三次として發表せられ又海軍側は大正三四年戰役以降平和克復に至る迄のものを漸次發表する豫定なりと（東京來電）

米作良好

五千八百餘萬石

[illegible]（東京來電）

消費節約生產增加

我財政委員演説す

[illegible]

船舶會社合同問題

[illegible]

罷業更に延期

[illegible]

飢民救濟聯合會

[illegible]

佛對支那反駁

[illegible]（北京來電）

朝鮮步兵增加數

[illegible]（東京來電）

勞農政府の將來

[illegible]

對露貿易前途

[illegible]

北樺鑛業取締

[illegible]

ブハラ國革命

[illegible]

哈府石炭缺乏

[illegible]

浦鹽關稅緩和

[illegible]

久保京管局長辭職と安藤氏襲任か

後任下馬評既に起る

[illegible]

第四期檢閱

[illegible]

仁取込奈何

[illegible]

棉作豫想

[illegible]

大阪より

[illegible]

棉花在減少

[illegible]

輸入棉花激減

[illegible]

木綿足袋不振

[illegible]

道學務課長會議

[illegible]

下旬鮮鐵在貨

[illegible]

鎮南浦見學團

[illegible]

人事

[illegible]

風塵錄

[illegible]

株式界

[illegible]

商況

四日大阪入電前寄

[illegible]

四日東京入電

[illegible]

京株市場出來値（四日）

[illegible]

仁川期米特電

十月四日前場

[illegible]

東京期米特電

十月四日前場

[illegible]

大阪期米特電

九月四日前場

[illegible]

十月四日後場

[illegible]

屍體四十を遺棄し 散を亂して退却
馬賊團石炭山に遁入す
秋洲副領事は無事なりしも 警察署長及警部戰死

琿春に殺到せる馬賊團は屍體約四十を遺棄し退却したるが其主力は東大人溝より石炭山に遁入せるものの如し其一部は散を亂して頭道溝方面に向け退却しつつあり領事館分館主任副領事秋洲郁太郎氏は孤軍奮鬪したるが戰死せず領事館警察署長其他警部戰死し居留民會長門脇謙吉氏は輕傷を負ひたり目下殿堀整理にて詳細を知るに由無し（[illegible]來電）

我政府の態度強硬
琿春事件は飽迄糺彈せん

琿春領事館事件に就ては我政府は頗る強硬なる態度を持し目下考慮中なるが領事館放火の如きは帝國の威信に關することとして重大視し是れが解決方法として單に地方問題とのみ看るを得ざれば調査の上是れを中央に移し小幡公使をして北京政府に嚴重抗議せしむべしとの意嚮あれば本件（東京來電）

琿春事件に關しては賠償謝罪保障等の諸要求をなすは勿論なりと尚同方面に於ては既に二週間以前に於て形勢不穩の情勢に在りたる爲我領事も警察力を增大し是れに備へ居りたるなるが支那側の秩序維持の不足なりしことは甚だ遺憾なるも善後處分に關し帝國政府としては最善の手段を執るべしと言明せり

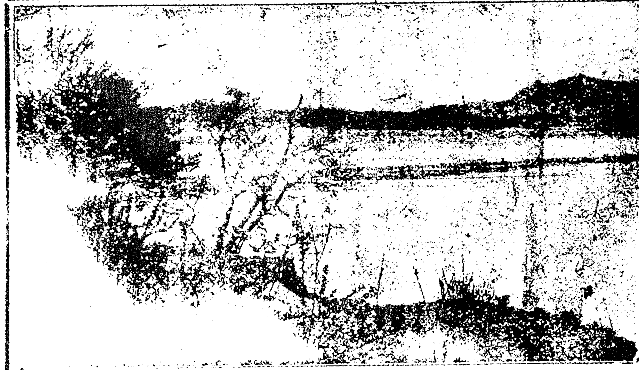
釜山警察爆擊の 犯人は上海の廻し者
爆發が早過ぎ重傷を負ふ
署長は輕傷其他は無事 連累多數逮捕さる

去る九月十四日午後二時半頃釜山警察署事務室に於て爆彈を投擲せる不逞鮮人のありたることは當時より新聞記事差止中の所今回解除されたるを以て左に其概況を報道すべし

當時犯人は公用あるものの如く裝ひて署長に面會を求めたるを以て署長は彼を事務室内に通し署長の右側に座せしめ署長が右側に向き直らんとせる瞬間轟然たる音響は

煙に紛れ

て其際を逃走せんとせるも豫想に反し案外にも其爆發早かりし爲犯人は右膝關節部に重傷を負ひ昏倒すると共に署長も同樣右膝に負傷せるが此傷 その足元に起れるものにして加害者は未だ爆彈の投擲方法に就き習熟を有せざるものにして爆彈投擲と同時に



湖のほとり

電車掌

是を拒絕

閑院兩宮殿下 御西下

不逞鮮人 平北一の 資產家を襲ふ

露國士官 愛人の後追ふ
賞はせ將軍 愛嬢の戀人

鐵道病院の惡評
連袂辭職以上に は世上に傳へられて居る
重傷患者が急に退院して 町醫の御厄介になる有樣

齒科醫が宿直で 應急手當が 間に會はなかつた
病院に對する入院患者の批難

一層蕁ま

齒科醫

廻り切れ

九州日日燒失

縦斜と草履

盜掘して蓄電

勃發する

シベリヤに泣く女 (二)
鐵狼の樣な 露支人と 酒に醉ふ女の群

紅燈私娼 ロマンス

自暴自棄

醜い屍を

哀な氣分

暗い燭光

電話の幽靈番號
街に迷ふた 是でも新式の番號簿か
五百番さへ知らぬといふ 嘘のやうな事實がある

新刷された

實在の

改惡の

自然美と人工美 印象深き京都より奈良へ
朝鮮女教員視察團第四信

臭味しく

雲泥の差

旭會演奏會 第二日を聽く

フイルム
▼大正館 皮の鞭 原名「ゼ、ラッシュ」

市民の聲
■一にして盡きず

三面拔萃帖

小栗判官照手姫 (八十九)

旭亭櫻山口演

死骸は裏の地獄谷

閻八郎喜んで、八「そういふ事は手前大好きだ、然らば對手致さうから、强さうな者をすぐつて出して見れ」小「其れぢや旦那、此處は狹くつていけないから、彼方へ出て貰ひます」八「如何さま座敷では働けまい、庭でやらう」と六尺程の棒を一本借り受けて庭に出でる、此方は小左衛門の抱へ大勢の中より選り抜かれたる五人の若者、何れも肉附きも宜し强さうだから斯ういふ者も味方にして置けば、イザといふ時の役に立つと、八郎心に打喜び、五人を代る代る對手に致して試つて見た處が投節閻八郎の武勇は格別で、とて打勝つものは一人もない、ペタペタと負て終ひました 小「どうも旦那樣恐れ入りました、大した御腕前でございますな、貴客樣は一體何方の御方でございます」八「都の者だ」小「ヘエーどうも大したお腕前で、家の若い者が五人ながら負るといふは全く面目次第もございません、しかし御疲れでございませう、いざ山中の料理に濁酒どうぞ召上つて下さいまし」八郎喜んで其の濁酒をガブリガブリと飲み、肉を味つて居るとどうも美味い 八「御主人是れは好味の物だが何の肉で」小「何の肉と限りません、猪もあれば狼もあり又熊の胎兒も混じつて居ります」八「是はどうも珍らしい、頂戴致す」と前後に何んの心置きなく、旨味いまゝに、ムシヤムシヤ喰べる後から濁酒を勸めるから是れも思はず多分に過ごし 八「最早手前は充分ぢや」と頓て酒を辭して飯を貰ひました、勿論米ではない粟や稗がゴツチャになつて居る、其後二三の話をして、さて別の座敷に設けられあつた布團へ入るとサア苦しみ初めた、手足が全で痺れ掛けるやら掛はと思ひ當つたのは[illegible]外鎌倉權現堂の富丸屋方で横山三郎の懸策に掛り痺れ藥を服まされて、一時正氣を失つた、其の時のやうな工合、力を入れて起き上らうとしても、體はダダダと致して立つ事も出來ず、手も足も痺れて終つて少しも感覺がない、閻八を見て居たものと見えて、其時五六人ドカドカと入り來り大口開いて打笑ひ○「利いたく廻つたく」一同「ウム是れなら大丈夫だ、小頭巧く利いた、頭能く利きました」小「然うか、腕前が優れて居るだから少しでは效験が悪いと思つて澤山入れてやつたから能く利いた、コレ旅人手前は此處を何處だと思ふ神力村といふぞはなくて、妙滿山といふ山だ、其處に棲む乃公達は旅客の懐中を狙ふ稼業の者で、今度も小頭の彌助が手前の懐ろに儘に金があると見て取つて茲へ引摺り込んだのだ、サア不憫ながら命も金も一緒に取るから然う思へ」八「扨は其方達は賊であつたか、然らば些少ながら貯へ金もあるから、其れは殘らず進ぜやうどうか命だけは助けて貰ひたい、未練の事をいふやうだが私は命が大事の身體ぢや」小「命の大事でねえ奴はねえ、然んな世迷ひ言をいはずと覺悟をしろ」八「イヤ然うでもあらうけれども、私は命が惜しい、今お前方が服せた毒を消す藥が必ずあるに相違ないからどうか、其れを服まして毒を消して與れ」小「それや藥もあるに違へねえが、今茲で藥を貸して手前の命を助けたら、乃公達の稼業も知れて終ふ、最後役人に知れる譯にはいかねえから、其れで皆仕事をした奴は打殺して死骸を裏の地獄谷へ棄てゝ終ふのだ、假令迷ひ言を云はずと念佛の一つも唱へて死ぬ支度をしろ、サア者共其の金を掠奪つて終へ」○「合點だ」と若者が五六人突然八郎の懐へ手を突き込まうといたしました

讀者の聲 投書歡迎

△病院に[illegible]

(満室患者)△[illegible]任に對する後任者は持ち合せがないのか今夜にも出火とあつたら[illegible]無し坊主で困るおやないか(一市民)△市内某活動寫眞館のお茶子よ紳士とふざけるのをよせ見つともない一體館主は知つて居るか知らぬか毎週欠かさず三つの常設館を見てゆく我輩は此の某館が一番ジャラジャラしてゐることを目撃する今の内に何とかしないと名前を出すぞ(忠告生)△貸紙連の小よしの作は千登世にもチト屑を持つて下され(御存じより)△西大門通某學校長は相撲は危險だ[illegible]由我等無茶苦茶生は大に困る[illegible]の御同情を乞ふ(困り生)△[illegible]用各道自動車は隨分立派なもの結婚式や高等官婦人の物見遊山や役所の見物には使へても庶民には借用出來ぬものに候設置明なる當局様に御伺ひ申上候(判任官)

演藝案内

朝鮮郵船